

第42回 高知女子大学看護学会報告

高知女子大学看護学会企画委員長 田 井 雅 子

メインテーマ：看護を可視化する方略

第42回高知女子大学看護学会は、昨年に引き続き『看護を可視化する方略』をメインテーマに、平成28年7月10日（日）に高知県立大学池キャンパスにて開催された。今回は、1945年に高知女子大学の前身である高知県立女子医学専門学校が開学してから70周年にあたり、高知県立大学の創基70周年記念事業との合同で開催した。

当日は卒業生・修了生をはじめ県内外の施設から281名の皆様の参加を得て、活気ある学術集会となった。

午前は、高知県立大学学長の南裕子先生を講師に「地域医療とケアの時代への看護学の挑戦」というテーマで特別講演を開催した。午後は、看護の可視化について様々な現場から話題提供をしていただき、8つのワークショップを開催した。

学会長挨拶

講演に先立ち、野嶋佐由美学会長から挨拶があり、高知県立大学の創基70周年記念事業の一環として南学長先生に「地域医療とケアの時代への看護学の挑戦」のテーマでご講演いただくことが述べられた。本学は戦争と災害のなかでの歴史があること、歴史を振り返り、現在の状況を分析し、将来どのようにあるべきか議論していかなければならないこと、看護と社会の関係を振り返ることが学会ならびに70周年創基事業を通してできればと考えていることが語られた。高知県立大学は平和を重要な価値として位置づけており、平和と人間の安全保障の根幹はその人らしくあること、その人の豊かさのゆるぎない社会を重視することであり、まさに看護が重視してきた価値である。本学会には看護の価値を普及する役割がある。本日は皆様と看護の可視化をテーマに意見交換を行いたいと述べられた。



来賓の挨拶

高知県看護協会会長 宮井千恵氏、高知県立大学同窓会しらさぎ会会長 山崎美恵子氏、高知県立大学同窓会会長 梶原和歌氏より、第42回高知女子大学看護学会開催ならびに高知県立大学の創基70周年のお祝いと今後の学会の発展への期待が述べられた。

講演会：10:15～11:45

高知県立大学学長の南裕子先生に「地域医療とケアの時代への看護学の挑戦」のテーマでご講演いただいた。講演の内容については、本学会誌をご参照いただきたい。アンケートでは、「これまでの歴史、これからの看護が時代とともに考えていかないといけないことへの示唆をいただいた」「自分がかかわることで看護がかかわる。自分がかかわることで社会もかわる、という言葉を中心に留め、高知に根差したケアが提供できる人として今何を知らないといけないか、考えていこうと思った」「県立大の歴史、日本の現状、高知県の現状、今後何が必要になり、自分には何ができるか、考える機会となった」などの意見が寄せられた。



ワークショップ：13:30～15:30

今年は、8つのワークショップが開催された。どのワークショップも盛況で、アンケートでは、「ディスカッションできて、いろんな視点から看護を改めて考えさせられた」「訪問Ns、地域の医療チームの支援内容が良くわかりました。病院での連携のあり方などにこれから活かしていきたい」などの意見が寄せられた。